



Title	言語文化学 Vol.22 編集後記
Author(s)	山本, 佳樹
Citation	大阪大学言語文化学. 2013, 22, p. 116-116
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77775
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『言語文化学』第22号をお届けいたします。今号には論文19編、研究ノート2編の応募があり、実際に提出されたのは論文15編、研究ノート2編でした。厳正な審査を経て、最終的に論文7編、研究ノート1編を掲載することになりました。ご多忙中にもかかわらず早く査読をお引き受けくださった先生方には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、学会活動のもうひとつの柱としてとして、例年どおり2度の研究発表会を開催しました。昨年度より、春・秋ともに言語社会学会との合同大会となっています。箕面キャンパスで開催された第41回大会（春季大会、6月28日）では、昨年度同様、言語社会学会のみなさまに準備・運営から懇親会にいたるまで、きめ細かなご配慮をいただきました。ありがとうございました。言語文化学会から10名、言語社会学会から8名、合計18名の発表者があり、5会場に分かれての盛大な研究発表会となりました。豊中キャンパスから参加する学会員のために今回もバスをチャーターしましたが、乗れない方があったほどでした。第42回大会（秋季大会）は豊中キャンパスで10月25日に開催し、言語文化学会から3名、言語社会学会から7名、合計10の発表者が、3会場に分かれてそれぞれの研究成果を披露しました。

学会運営については、本年度は、秋田喜美先生（書記）、今尾康裕先生（学会誌後半）、上田功先生（春の学会運営）、中村静先生（事務局）、深澤一幸先生（学会誌前半）、森祐司先生（副委員長）、山本（委員長）、ヨコタ村上孝之先生（秋の学会運営）の8名の教員委員（五十音順）、伊藤啓さん、汪南雁さん、中野遼子さん、馬リャンリャンさん、林蔚榕さんの5名の院生委員（五十音順）および、事務局補佐の中井啓子さんからなる、総勢14名のスタッフが担当しました。とりわけ、助教の中村さんにはたいへんお世話になりました。4月に赴任していきなり事務局を担当することになり、最初は戸惑いもあったと思いますが、学会運営に伴う実務上の煩雑な仕事を一手に引き受けて、学会の屋台骨を支えてくださいました。

今年度の試みのひとつとして、研究発表の際、言語文化学会の発表者の司会は言語社会学会の先生に、言語社会学会の発表者の司会は言語文化学会の先生にお願いする、というやり方を、これまで以上に徹底しようとしたことが挙げられます。新たな出会いや学術的意見交換のきっかけとなれば幸いです。こうした小さな工夫の積み重ねが、両学会の交流を着実に深めていくための一助となることを願っています。

2013年2月

大阪大学言語文化学会委員長 山本佳樹